

「交流の輪」を広げて……35年

平成25年10月1日発行 10月号
毎月1日発行 通巻443号
ISSN0443-2262 郵政事業認可済

百歳万歳



月刊やっかいばんがい



私の極上の時間
金井克子さん

海とともに
生きるまち
南三陸

特集

魅惑の秋を満喫
人にやさしい

バリアフリー対応の温泉宿

あらためて検証する

節電の極意と成果



スポット ライト

高井戸マジッククラブ

東京都

参加すると、マジックが だんだん好きになってくる 不思議なマジッククラブ



講師の幸染スガヤさんの指導に一同注目

趣味ならではの楽しさ

講師の話に全員が集中。趣味の集まりならではのなごやかな雰囲気ながら、全員が魔法にかかったように引きこまれていく。そんな集まりだ。

活動日は月に2回。マジックの経験が豊富な会員が、指導も兼ねるほか、2カ月に1度はプロのマジシャンの指導を受ける。このほかに自習の日もあり、それをあわせると活動は月3回。今回お邪魔したのは、プロの方が出席される日だった。手慣れた講師の実演と解説、精明かし、道具の解説と、テクニックがよく通る。

指導にあたる幸染スガヤさんは、会の印象をこう語る。「活気があって目が輝いていま

すね、やる気がある方が集まっているからガッツがある。でも、趣味だから楽しんでやっている。それが印象的」

続いて入会2年目の坂本亮治さん（70歳）の声。

「最初は、なんか面白いらしいよと聞いて顔を出したんですけど、本当に楽しい。モノをつくるのが好きなんです、道具なんかも自分で作れるんじゃないかと、ベテランの方に基本を教えてもらえるのもありがたい」

そのベテランの会員のひとり、マジック歴30年という高井戸一郎さん（72歳）は、「勤めていたころは会社の宴会などでやっていました。ここへ来るようになって4年目です。私の場合、どちらかというと道具作りが趣味ですね。実演

も、ボランティアに出て楽しんでもらえるところがうれしいですね」会の当初から参加している斉藤恵さん（74歳）は、「私はステージに出て、というより座もちができて盛り上げられれば、楽しいけれど、むしろ観客を覚えてアンチエイジングに意識しています」と語る。

だんだん好きになる

会長の松本康男さん（78歳）によると、創立のきっかけは杉並区民を対象とした生涯学習講座、杉の樹大から。

「65歳以上を対象に、地域活動のリーダーを育成する1年間の学校です。そこで募った会員と立ち上げました。6名で始めて、現在は20名です」

したがって会員の年齢も60代以上、この点も魅力の一つのようで、「話題が合う」（藤井満里子さん・72歳）という声も。

指導の幸染さんに比べると、「若い人が2割ほどいるんですよ。目標がある場合がある」というから、年配者だけの人が集むらむらと共有しやすいところがあるのかもしれない。

ちなみに藤井さんの場合、親戚にマジック好きの人がい



道具に対する興味は尽きない(右上・右端が松永康男会長) 趣味の社交ダンスの衣装で実演(左上・菅原静加さん)、いつも笑顔の指導(左上から2点目)、指導を受ける植野葉子さん(左上から3点目)、道具の使い方を習う会員(右中段・右端が藤井真澄子さん)、高井洋一郎さんの実演(下段左)、有坂洋二さん(下段左から2点目)、宮藤重さん(下段左から3点目)、栗本亮治さん(下段右端)



て、法事や結婚式で披露するのを見て興味を持ったとそう
で、「クラブ入会や親戚の前でや
つていますが、これからはボラ
ンティアにも出ていきたい」と
考えているようだ。

4月に入ったという植野葉
子さん(80歳)もまた、ボラ
ンティアでの演技が目標だ。
「子供たちへの『読み聞かせ』
を習っているんですが、読み聞
かせのときにマジックもできた
ら面白いだろうと思ってます」
なお同様に、ここで初めて
覚えた方は少なくない。有坂
洋二さん(77歳)も、そのひとり。
「見るのは好きでしたが、自分
でやるのは考えていませんで
した。この会の実演を見て通い
始め、1年半後に参加しまし
た。やってみると本当に楽しい」
今でははマギー司郎さんの
許可を得て「まぎー・ヒロシ」
という芸名も持ちかえらうだ
というおもしろい思いを持ちなが
ら、マジックを「楽しむ」とい
う点で結びついている。松水会
長は、次のように今後を語る。
「会に集まると、マジックがだ
んだん好きになってくる。その
ために楽しくておもしろい環
境をつくっていききたい」